

数学

関西学院大学 全学日程 [文系] (2 / 1 実施)

<全体分析>

試験時間	60 分	解答問題数	3 題
------	------	-------	-----

解答形式

[1] [2] 空所補充、[3] 論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

数学 I A II B のすべてから出題されている。

その他トピックス

[3] の 3 次関数の積分は 6 年連続のテーマ。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1] (1) (2)	三角比 確率	数学 I 数学 A	余弦定理を用いて、辺の長さや余弦、面積を求める。 余事象を用いて確率を求める。	標準 標準
[2] (1) (2)	対数・微分法 数列	数学 II 数学 B	対数関数の最大値を求める。3 次関数を微分する。 数列の一般項を求める。数列の和を求める。	標準 やや易
[3]	微分法・積分法 三角関数	数学 II	接線の方程式や 3 次関数のグラフと接線、y 軸で囲まれる部分の面積を求める。変数の置き換えをし、変数の取りうる値の範囲や関数の最大値、最小値を求める。	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

幅広い分野に渡って出題されているので、全分野を偏りなく学習する対策が必要である。教科書に載っている数学の定義や用語、定理・公式をしっかりと把握し、使いこなせるようにしたい。そして章末問題を問題なく解答できるレベルを目指したい。出題される問題の中には、他分野との融合もあり複雑に見えることがあるが、定義と意味を考えれば一つ一つは基本の作業に帰着されるので、普段からパターン学習に傾倒せず、しっかり考え、思考を整理する訓練を心がけてほしい。